

は普通に行はれたるものと見え、元史巴而朮阿而忒的斤傳にも酷似の記事を載せ、Bugu に當るものを「不可<sup>26</sup>」と記せり。Marguart<sup>27</sup>氏は Alai-eddin の記せる傳説中に、Bugu Khan が夢に千人許りの白衣を着、白巾を被れる人ありて、瑪瑙石 (Radloff, Achatstein. Marguart, Nephritstein) を彼に與へ、此の石を保持せば世界は汝を權威の下に在るべしと云へりとあるを解して、此等の白衣白冠の人は摩尼教徒を云へるものにして、Bugu は唐書の牟羽、又 Le Coq 氏の獲たる摩尼教文書に見える buyuy に當るべしと考へたり、回鶻開國の祖として傳へらるる Bugu Khan を、只だ音聲の類似の爲に、開國の事とは何等關する所無き牟羽可汗に該當せしめんとする解釋の當否は暫らく措きて問はずとするも、若し果して氏の考ふるが如く、Bugu は牟羽 (Bögi) 及び buyuy と同一人を表はしたるものなりとすれば、何故にトルコ語に於て嚴重に區別せらるる軟母音語の Bögi が、一方全く語義を異にせる硬音語の Bugu 若しくは其の末に更に喉音を有せる buyuy と變形するに至りしかは解釋し難き所にして、Chavannes, Pelliot<sup>28</sup> 兩氏も既に此の事を論じ、而して回鶻に摩尼教を導きたる可汗の何人なるかは、此等の推論によりては解釋せられたるものに非るを説けり。

buyuy を以て牟羽に該當せしむることは、一方は史上の事實より、他方は音譯の上より批難すべき所多く、今到底之を認め得べきに非ること上述の如し、然も牟羽可汗以外には唐代に於る回鶻可汗の名に於て、buyuy に類似の名の記さるるものあるを知らず、只だ之と關聯して考ふるを要するは、懿宗の咸通七年北庭より進みて西州即ち高昌地方を領するに至りし回鶻の首領を、唐書回鶻傳及び吐蕃傳に僕固俊と記せることなり、<sup>30</sup> buyuy は或は此の僕固と關係する所非るべきか、僕固は九姓回鶻の一姓として見らるるものにして、唐代の史書に於ては此の語を其の